

# 平和の大切さを伝えるために

副総務課 ☎826・1111 内線2212

8月6日、広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式が広島市の平和記念公園で行われ、本市から市内公立中学校の生徒代表16人を含む22人の平和使節団が参列しました。原爆が投下された午前8時15分に黙とうをささげると共に、平和への願いを込めて折った千羽鶴(約1万5千羽)を「原爆の子の像」へと献納してきました。

**森 浩孝さん(土浦市地区長連合会)**



1945年8月6日午前8時15分。広島市上空で一発の原子爆弾が炸裂し、老若男女問わずに襲った爆風、熱線、放射線による惨状が、71年前に起きた事実であることを私は知識としては持っていました。この度、平和記念式典に参列し、ヒロシマの地に立つて想うと、全人類の記憶として伝えねばならないという、「ヒロシマからの平和宣言」の意味を自身に問い掛ける良い機会となりました。折り鶴に込めた「恒久平和」をぜひ実現させましょう。

**高橋信子さん(土浦市女性団体連絡協議会)**



式典前日、「原爆の子の像」に中学生や市民の皆様が折った千羽鶴を献納しました。2歳で被爆し10年後に白血病で亡くなった佐々木禎子さんが病床で折った鶴は、1cm位の本当に小さなものでした。「心を込めて鶴を折る」ことは、たとえ小さな一歩でも、平和を祈りながら行動することの大切さを象徴していると思います。非核平和都市を宣言した土浦市民の一人として、これからも平和を守り伝えていく想いを新たにしました。

**居館詠美子さん(土浦青年会議所)**



8月6日、広島平和記念式典へ参加させていただきました。アメリカの現職大統領が初めて被爆地を訪問された今年は、多くの人々が式典に訪れておりました。こども代表の方の誓いの言葉の一部「私たちは知りたいのです」という言葉が印象的でした。あの悲惨な現実が、二度と繰り返されることのないよう、1人でも多くの人に広島を訪れ、歴史を引き継ぎ、世界平和への思いをより深めていただけたらと、改めて思う貴重な機会となりました。

**西岡徳彦さん(土浦三中 教諭)**



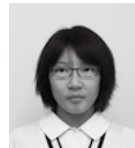
平和使節団結団式後の事前学習会では、私を含め参加した多くの生徒は、広島市の原爆に関する映像などを直視できない時もありました。しかし、実際に資料館などを見学し、講話を聞き、平和記念式典に参列した私たちには、71年前の8月6日に起きたことや原爆・戦争の恐ろしさを知り、命の尊さや平和への願いを伝える使命があると実感しています。今回の事業に参加させていただいた土浦市に心より感謝とお礼を申し上げます。

**古谷知博さん(土浦一中 二年)**



初めて訪れる広島は、活気ある街並みで、かつて原爆が投下された焼きつくされた場所であることなど想像もできませんでした。しかし、原爆ドームの存在が戦争を忘れてはいけないと語っているようでした。二度と戦争の苦しさを繰り返してはいけないと強く感じ、平和であることを知りました。僕は、今回広島に行って学んできたことをより多くの人に伝えていきたいと思っています。

**坂本美優さん(土浦一中 一年)**



私は広島へ行き、原爆のことについてたくさん知りました。今の広島からは想像が来ないほどの悲惨さ、恐ろしさを、実際にその場所を感じてみると平和の大切さがよく分かりました。多くの人々を苦しめた戦争を二度と起こさず、平和な日々を過ごしていくためにも、原爆の恐ろしさや戦争の悲惨さを戦争を知らない私たちの世代がしっかりと学び、ヒロシマの記憶を後世に伝えていかなければいけないと思いました。

**先崎大空さん(土浦二中 一年)**



実際に被爆したものをみて、一発の原子爆弾の恐ろしさを感じました。人が被爆し骨も残らずに影が残るという日常ではありえないこと。放射線を浴びて後遺症が残ってしまったら亡くなってしまふ人。これらのことなどを多くの人に伝えていきたいです。

**嶋崎 華さん(土浦二中 一年)**



私は、8月5日から3日間、広島市の平和記念式典に使節団として参加しました。以前から興味を持っていたのでとても楽しみでした。私の中で一番印象的だったのは、地元の小学6年生の「平和への誓い」です。力強く、はきはきと読み上げている姿に感銘を受けました。71年前に原爆によって身も心もボロボロにされた広島の方々は今ではしっかりと前を向いて進んでいる、そう感じた瞬間でした。

**今村武夢さん(土浦三中 一年)**



僕は平和記念式典に参加して、広島が世界中から注目されていると感じました。多くの命や生活が原爆によって一瞬にして奪いさられました。原爆ドームのむき出しになった鉄骨がその恐ろしさを物語っていました。さらに平和記念資料館では、広島市の苦しみや悲しみ、痛みが伝わってきました。世界が非核化するために、唯一の被爆国に生まれ、僕達が、あの日広島で起きたことを伝えていかなければいけないと思いました。

■保坂百合子さん(土浦三中 二年)



私は広島に行ったことで、原爆投下でどのような被害があったのか、原爆とはどのようなものなのかを実際に体験することで、学ぶことができました。そして平和の大切さを実感しました。ですから私は、多くの人に体験したことを伝えることで世界平和実現へと繋げていきたいです。

■金原真真さん(土浦四中 一年)



今回私は、原爆の恐ろしさや被爆された方々の悲惨さを学びました。また、なぜ現在も原爆の影響で苦しんでいる人がいる中、核兵器を作り続けているのかと疑問に思いました。核兵器の廃絶こそが私たちに与った使命だと思います。

■嶋山羽奏さん(土浦四中 一年)



今回広島を訪問し、あの日の事実と71年経っても消えない思いがあることを知りました。私たちは、被爆者の「叫び」を「平和」につなげるために、被爆国の一人として世界に「平和へのメッセージ」を発信していかなければならないと強く感じました。

■疋田 航さん(土浦五中 一年)



広島に71年前、人類史上はじめて原子爆弾が投下され、14万人の尊い命を奪いました。私が広島へ平和使節団として派遣されて、心に残った事は、広島市の原爆死没者慰霊碑に刻まれた碑文「安らかに眠って下さい 過ちは繰返しませぬから」という文です。私達は、「核なき世界」をつくる必要があります。日本に一輪の鮮やかな花を咲かせましょう。平和はいつも、貴方のその優しい微笑みから始まるのです。

■富澤莉子さん(土浦五中 一年)



今回広島を訪れ私は原子爆弾の投下について、悲しみと共に大きな疑問を持ちました。71年前の広島の人々は想像していなかったと思います。ある日、自分達の住んでいる広島という街が一瞬にして破壊されることなど。同じ人類が争うことは悲しみしか生まないと私は思いました。どうすれば争いのない平和な世界が作れるのでしょうか。私が広島に行き学んだことを、もっと多くの人に知らせていきたいと思えます。

■矢口慎之佑さん(土浦六中 二年)



僕は、広島に行き、原爆のことをいろいろと見てきました。恐ろしさ、残酷さ、たった一つの原子爆弾がもたらした莫大な被害などを知り、三十万人の尊い命がなくなっていることが一番悲しいと思いました。こんなことがあった以上、核兵器というのは、あってはならないと思います。お金で作っている物でお金で買えない物を失っては、いけないと考えています。

■廣木夏葵さん(土浦六中 二年)



戦争や核兵器について、テレビや教科書でしか見聞きした事はありません。普段の生活を送っている私には、実際に大きく気にとめる機会はありません。今回、平和記念式典参加や資料館を見学した事で平和な日本で生活していることは、幸せだと改めて実感しました。私にとって貴重な経験となりました。

■岩間流輝さん(都和中 二年)



今回2泊3日の広島平和使節団に参加し、多くのことを学ばせていただきました。平和について今まで考えることも無かったことを考える機会とすることができました。命の尊さ戦争の怖さを感じました。そして、今後一切戦争を起こすことが無いように今回僕たちが学んだことを伝えていきます。世界から戦争が無くなり笑顔が多くなる社会にしていきたいです。

■小池初果さん(都和中 二年)



私が、広島に3日間行って心に一番残っているものは、本川小學校平和資料館で見た「安らかに眠って下さい、過ちは繰返しませぬから」と書かれた掛け軸です。短い文だけど原爆が落とされたときの悲しみがすごく伝わって来ました。苦しんで亡くなった方々、亡くなられて71年経った今でも遺族の元に帰れずにいる方のためにも、もう二度と同じことを繰り返してはいけなと考えさせてくれるものでした。

■酒井悠真さん(新治中 二年)



一発の原爆。私は広島に行き、その原爆の凄さや悲惨さを学びました。広島は原爆投下された面影を感じさせないきれいな街でしたが、原爆ドームや資料館は迫力や圧迫感を感じ、核の怖さを改めて痛感しました。核兵器、戦争、紛争がなくなり、世界平和になることを望みます。

■小張 葵さん(新治中 二年)



8月5日から8月7日にかけて、平和使節団の一員として、広島に行ってきました。広島では、平和記念資料館に行ったり、平和記念式典に参加したりしました。特に私が心に残ったのは、灯ろう流しです。灯ろう流しでは、日本語で「平和」と書いている外国人を目にしました。日本人だけでなく海外の人まで平和を願っているんだなと思えました。とても充実した3日間になりました。

(原文のまま)